

サッカー・ワールドカップ(W杯)南アフリカ大会は大方の予想通りスペイン代表の優勝で幕を閉じた。堅守速攻が主流とされる現代サッカーにおいて豊富なタレント、華麗なパスワーク、卓越した個人技に、スペインサッカーの魅力が最大限に発揮されていた。

従来、スペインはサッカー先進国でありながら世界的な大会での成績は振るわなかった。バルセロナ、レアル・マドリッドという世界有数のビッグクラブがあり、国内リーグの人氣、実力とも世界一とも言われているが、代表の人氣はそれほどでもなかった。その理

SPORTS MUST CHANGE

谷塚 哲



由にはスペインの歴史が大きくかわっている。

中央政権が地方を制圧していたスペインの歴史において、地方が中央に対抗できるのはサッカーしかなかった。バルセロナ(地方)とレアル・マドリッド(中

を表現できる手段であった。このような背景から従来、代表よりもクラブの人氣が高く、代表の応援の時でさえ、各クラブの旗を掲げることもあった。

しかし、時は流れ、今回のW杯優勝という快挙には語り継がれる快挙だろう。アジアにおいてその地位は確固たるものになったが、世界基準となるためには「日本のサッカー」を形作る必要があるだろう。W杯ごとに欧州、南米と代表監督が代わるのではなく、

日本サッカー何色に

央)のダービーマッチが異常な盛り上がりを見せるのもそんな歴史的な背景(地方対中央)があるからだ。各自治州としての独立性が強いスペインの場合、地元サッカークラブこそが地域のアイデンティティ

多くのスペイン国民がスペイン国旗を掲げ歓喜した。ある意味、サッカーが歴史的背景を超越し、国民の意識を一つにしたのである。日本代表はベスト16という成績を残した。これは今後の日本サッカー史におい

また大会直前に戦術が変わるのではなく、これが日本のサッカーだ、という「形」を見つけ、その「形」を継承し、世界と戦っていくことが必要だろう。サッカー後進国から先進国へとこの十数年で急激に

変革を遂げようとしている日本サッカー界。技術の向上や環境の整備は先進国にもひけをとらない。しかし、サッカー先進国にはそれぞれのカラーがある。そのカラーには歴史や文化、民族などさまざまな要素が詰まっており、このカラーこそが国民のアイデンティティなのである。そして勝敗以上に、カラーの激突もサッカーの魅力なのである。

果たして日本サッカーのカラーは何色なのだろう。そのカラーを見つければ、旅がまた始まる。

(REGISTA有限責任事業組合代表)

隔週土曜日掲載